

# 若者100人会議

## ■若者の力の掘り起こし

今年度から始まった取り組みの一つに「若者100人会議」があります。本来は令和2年度から開始する予定でしたが、コロナ禍で1年遅れてのスタートとなりました。

会議の目的は、若者の意見を市政に反映させることにあります。20代から40代の若者50人弱が、月2回のペースで人口減少を中心課題とした4つの部会に分か



若者100人会議で議論を交わす当会議のメンバーたち

れて話し合いを続けてきました。昨年末、各部会ごとにプレゼンを行ってもらい、地域課題の解決に役立つと判断された提案については、来年度の新規事業として採択しています。

## ■若者100人会議のポイント

若者から市政に提言をしてもらおうといったスタイルの事業は、多くの自治体で取り組まれています。今回のこの会議の特徴は、単に集まって話し合い、まとめ

られた内容を市に提言するだけでなく、その後自分たちの提案を実際に動かして実効性を検証しながら改善していくことが約束されているところにあります。

これまでの行政の枠組みに、若者の発想を地域課題の解決に真つすぐつなげるといった機会は実際にはほとんどありませんでした。私はこの会議が若者の思いやアイデア、そしてエネルギーを地域に還流できる仕組みとなることを期待しています。

## ■政治的無関心

政治学では、政治的無関心層の存在を一定数予測しています。そして、心理学的あるいは行動学的性質から政治的無関心を分類し定義付けしています。

私もこれまでの政治活動のなかで、政治的無関心層の存在を強く感じるものが何度となくありました。と同時に、政治的無関心が単なる興味の無さから来ているのか、あるいは政治に対する諦めから来ているのかによって大差があることも強く感じてきました。私は、前者を「無関心ゆえの無関心」、後者を「失意の無関心」と捉えています。

前者はそもそも政治に興味がないためであり、そこに難しい感情はありません。問題にすべきは「失意による無関心」です。これは元来政治に期待をしていて、ある時点でそれが失望に変わったときに生まれる無関心です。特に若者世代のそれは深刻です。失望は諦めとなり、ひいては地域活力の減退、担い手の

流出を招いてしまうからです。

## ■バリ取り

私は職員訓示のなかで次のようなことを述べています。

「若い職員の発想には瞬発力があります。しかしそれは拙いものです。経験不足、知識不足から来るその拙さを経験と知識に勝るベテラン職員に補ってもらいたいのです。若い職員の可能性を伸ばしてあげてください。」

私はこのことをしばしば製造現場になぞらえます。例えば一次加工された部材があります。まだ粗削りで製品とは言えません。熟練の職人による仕上げが必要です。荒削りな素材も磨き上げられなければ商品になりません。バリ取りが欠かせないので。

人も同じです。若い人たちは喜んで意見を出し合い行動しようとしています。ただ、その行動力が思い込みや経験不足によって先鋭的になったりする場合があります。バリが付いた状態と言えます。だからこそ、周りにいる大人たちが寛容さを持って若い人たちの尖りに丸みを持たせてあげるべきなのです。それが私の考える「人にとってのバリ取り」です。



にかほ市長  
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

